

2024 年度 個人研究実績・成果報告書

2025 年 4 月 18 日

所属	サービス創造学部	職名	教授	氏 名	安藤 和代
研究課題	持続可能な観光商品に対する支払い意思額の研究 ～影響要因の抽出ならびに影響メカニズムの解明～				
研究キーワード	持続可能な観光、支払い意 思額、コントロール感、温 度	当年度計画に対す る達成度		3.概ね順調に研究が進展し、一定の成果を 達成したが、一部に遅れ等が発生した	
関連する SDGs項目	7. エネルギーをみんな に そしてクリーンに	8. 働きがいも経済成長 も	11. 住み続けられるまち づくりを	13. 気候変動に具体的な 対策を	

1. 研究成果の概要

従来の観光事業では経済的成果を過度に追求してきたとの認識と反省から、持続可能な観光が目指されている。持続可能な観光とは「現在および将来の経済、社会、環境への影響を十分に考慮し、観光客、産業、環境、ホストコミュニティのニーズに対応する観光（United Nations World Tourism Organization, 以下 UNWTO）」のことをさす。COVID-19 感染拡大前まで続いた観光業の成長が、関連事業者への持続可能な開発の要請につながっている(Agrusa, Linnes, Lema, Min, Henthorne, Itoga, and Lee 2021)。

旅行者だけでなくステークホルダーのニーズを把握しそれらに即した観光事業を開発することや、社会や環境への影響を理解し適切な対応をとることが求められているが、そのためにかかるコストは、観光事業者のみならずステークホルダーである旅行者自身が支払う必要がある。旅行者が持続可能な観光に理解を示し、応分の負担を受けるのか、消費者の態度を理解しておく必要があることから、持続可能な観光商品に対する支払い意思額や支払い意思額に影響を及ぼす要因を明らかにし、影響のメカニズムを解明することに取り組んでいる。昨年までに“プレイス・アタッチメント”や“知覚コントロール感”の WTPP への影響を仮定し実証研究を進めてきた。本年はデータの分析や考察を行った。

その他、持続可能な観光事業創造や地域創生に尽力する観光地域づくり法人（DMO）の取り組みの取材、観光マーケティングにおいて注目を集めるマーケティング策であるインフルエンサー・マーケティング研究を概観し知見を論文にまとめた。具体的にはフォロワーがエンゲージメント行動をとるメカニズムの解明に取り組んだ研究の成果から、フォロワーがエンゲージメント反応を示しやすい投稿者や投稿情報の特徴ならびに、フォロワーの反応を説明する心理的・認知的メカニズムを抽出し整理した。また今年度は、最も多くの時間を放送大学 印刷教材の執筆ならびに映像教材の制作に費やした。

2. 著書・論文・学会発表等（査読の有無及び海外研究機関等の研究者との国際共著論文がある場合は必ず記載）
学術論文：

安藤和代（2025）「インフルエンサー・マーケティングに対する消費者反応メカニズム研究の概観－エンゲージメントを促進する投稿の特徴－」『千葉商大論叢』第 62 巻, 第 3 号, 37－58.（査読無）

書籍（教科書）：

安藤和代・石井裕明（2025）『マーケティング』放送大学教育振興会

その他：

安藤和代（2024）「日本の空港はいま 沖縄県宮古圏域の二つの空港－空港を核とする地域振興に挑む下地島空港」『ていくおふ』株式会社 ANA 総合研究所, No.175, 42-51.

3. 主な経費

主として、学会年会費、書籍および論文、パソコン修理、調査にかかる費用（調査会社年会費）、学会年会費、書籍や論文、その他文房具やプリンター関連の消耗品の購入に充てた。

4. その他の特筆すべき事項（表彰、研究資金の受入状況等）

【科学研究費】

・基盤研究（C）：令和3年度～令和5年度、代表、「デスティネーションブランドに対する愛着の醸成と影響に関する実証的研究」（21K01743）継続中

【その他の活動】

- ・国土交通省 観光庁 マーケティング戦略本部 本部員
- ・国土交通省 交通政策審議会 観光分科会臨時委員
- ・国土交通省 航空局 羽田発着枠配分基準検討小委員会 委員
- ・国土交通省 航空局 羽田発着枠政策コンテストの評価等に関する懇談会 委員

以 上

（本文は2ページ以内にまとめること）